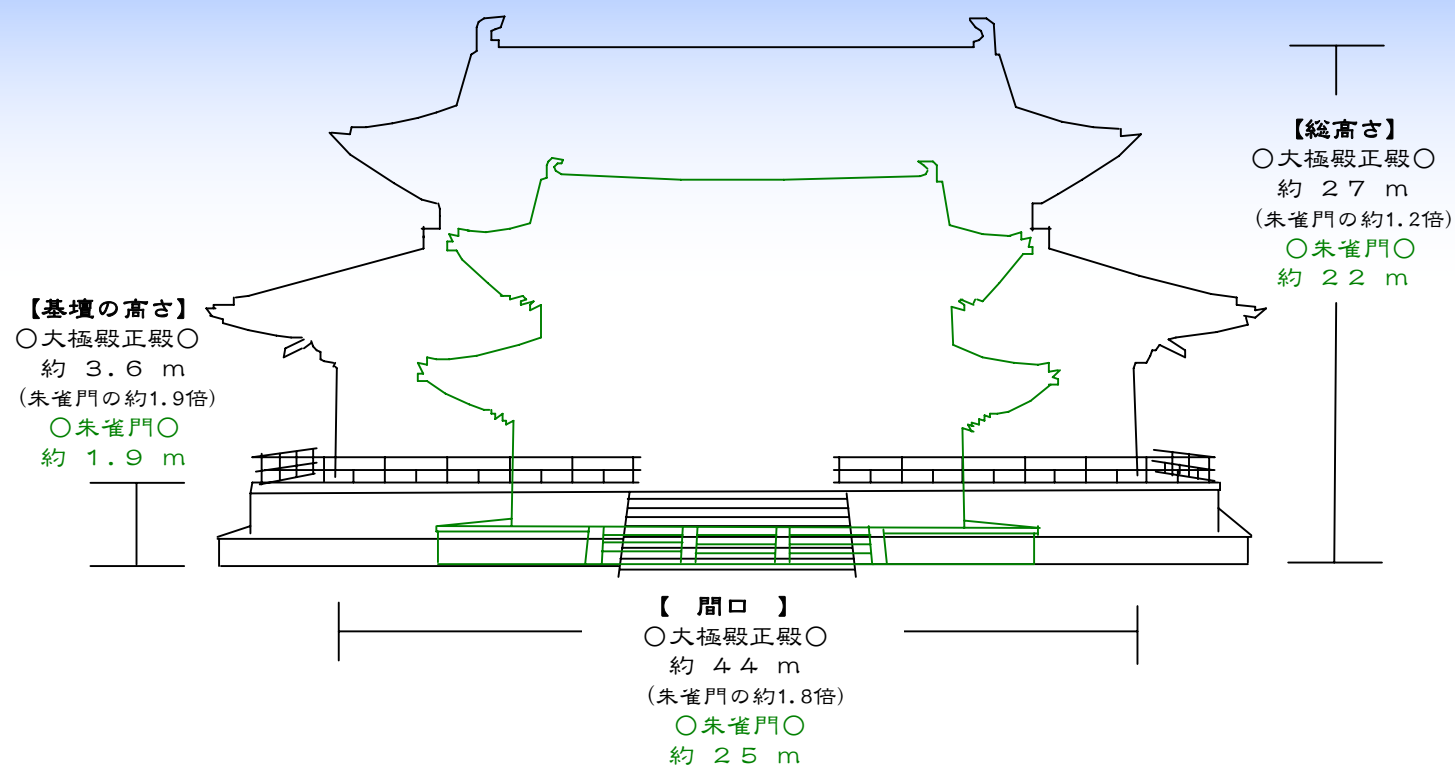
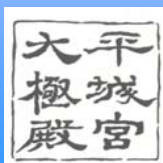
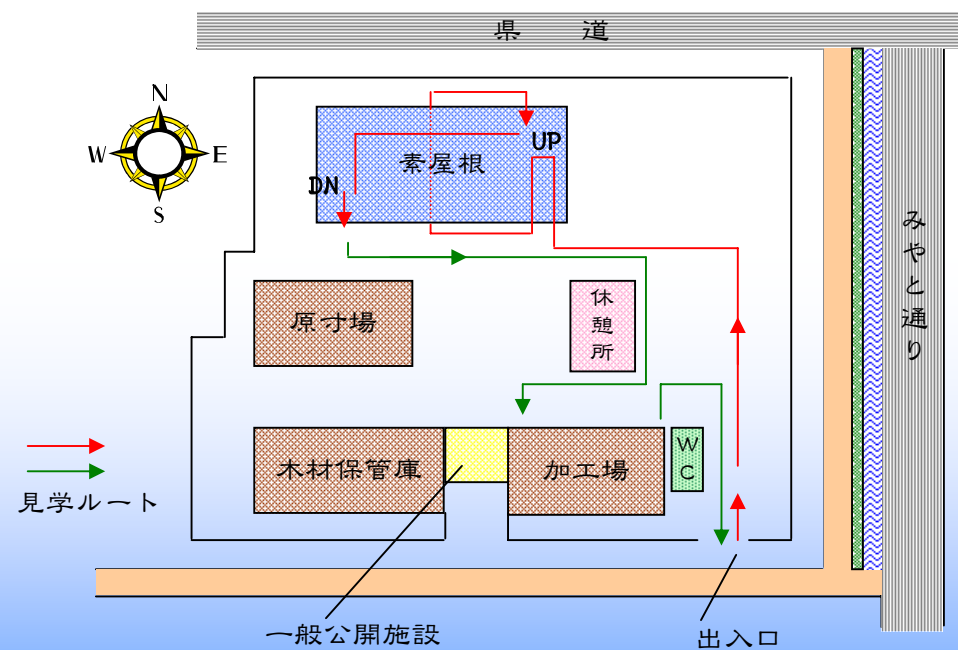


第一次大極殿正殿と朱雀門の比較



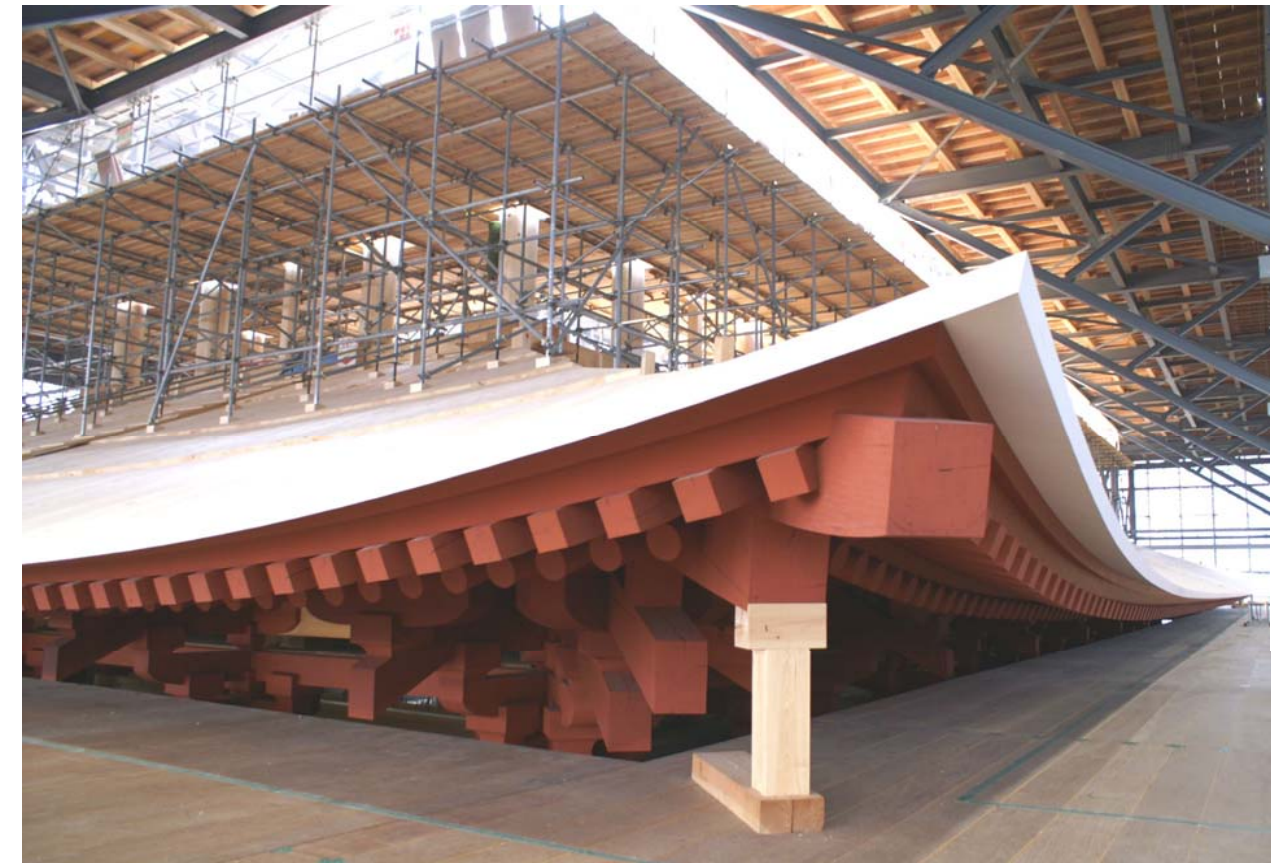
現場内 見学ルート



特別史跡 平城宮跡

第一次大極殿正殿復原整備

特別公開 (第4回)



平成18年 4月28日(金) ~ 4月30日(日)

- 主催■ 文化庁
- 共催■ 奈良県 奈良市
- 協力■ 文部科学省
 独立行政法人文化財研究所 奈良文化財研究所
 奈良県教育委員会 奈良市教育委員会
 (財)文化財建造物保存技術協会
 特定非営利活動法人 平城宮跡サポートネットワーク
 平城宮跡第一次大極殿正殿復原工事
 竹中・浅沼・森本特定建設工事共同企業体
 (財)竹中大工道具館
 日本伝統瓦技術保存会
 (株)龍川寺社建築
- 制作■ 平城遷都1300年記念事業協会

平城宮跡第一次大極殿正殿復原 設計概要

平城宮跡第一次大極殿正殿復原は、当時の奈良国立文化財研究所（現独立行政法人 文化財研究所奈良文化財研究所）において、平城宮跡におけるそれまでの研究成果を基に、平成10年度から平成12年度までの3年間で実施設計を行いました。

第一次大極殿正殿復原整備事業は、調査研究の成果を基に奈良時代様式（意匠・構造・材料・工法等）の史実に基づく厳正な復原を目指しています。

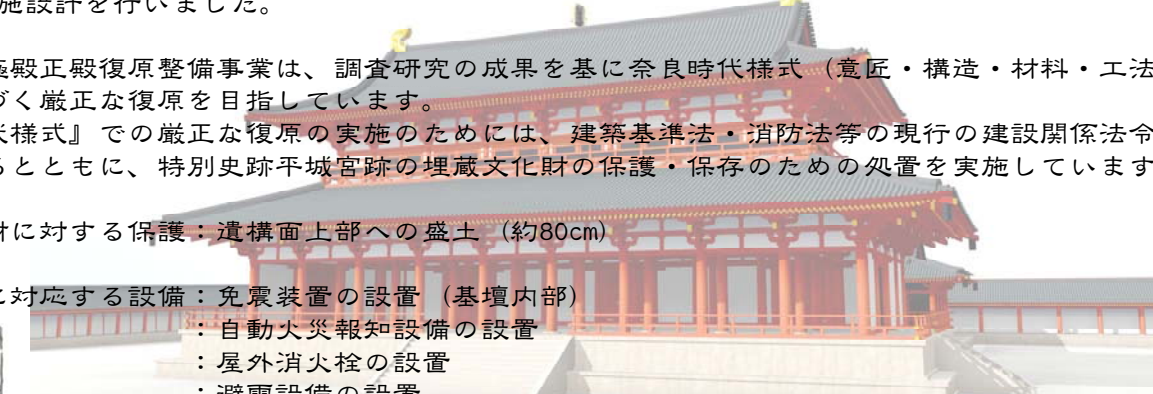
『奈良時代様式』での厳正な復原の実施のためには、建築基準法・消防法等の現行の建設関係法令等に適合させるとともに、特別史跡平城宮跡の埋蔵文化財の保護・保存のための処置を実施しています。

埋蔵文化財に対する保護：遺構面上部への盛土（約80cm）

現行法規に対応する設備：免震装置の設置（基壇内部）
 ・自動火災報知設備の設置
 ・屋外消火栓の設置
 ・避雷設備の設置



— 正殿完成予想CG —



◆ 基礎・基壇工事 ◆

鉄筋コンクリート造の基壇の表面には凝灰岩による石張りを施し、奈良時代当時の姿を復原しています。



基壇石張り

◆ 免震機構 ◆

基壇内部には、それぞれ異なる役割を果たす3種類の免震装置が合計54基設置されており、地震力による振動が直接建物に伝わらないようにしています。

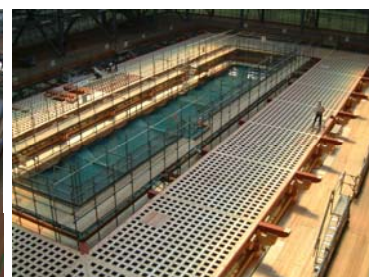


免震機構据付完了

◆ 木材の組立工程 ◆



平成16年 2月



7月
(第1回特別公開開催)



12月



平成17年 5月
(第2回特別公開開催)



8月



11月
(第3回特別公開開催)



12月



平成18年 3月
(二重部分 組立開始)

◆ 素屋根工事 ◆

正殿をすっぽり覆う大きさの素屋根は、ビル等一般の建物の8階相当の規模で長期間の工事の間、正殿を天候等の影響から守ると同時に、足場等の役割も果たします。



素屋根全景

◆ 木材の調達 ◆

復原工事で使用する木材は、国内産のヒノキ及びケヤキで、主に紀伊半島周辺産のものが搬入されています。

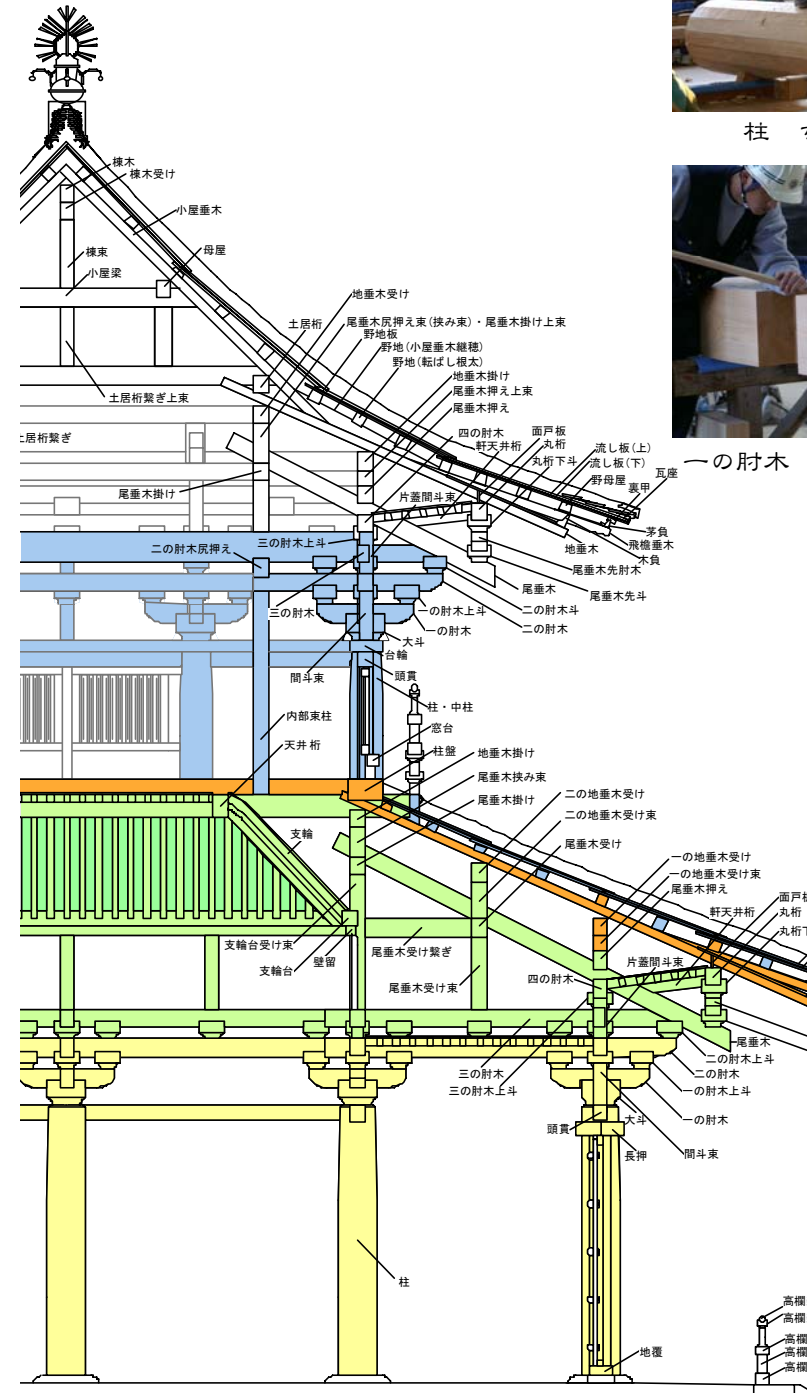


立木伐採状況

◆ 組立工事の進捗状況 ◆

- ◆ 第1回特別公開時 (平成16年 7月)
- ◆ 第2回特別公開時 (平成17年 5月)
- ◆ 第3回特別公開時 (平成17年11月)

※現在 青色 で着色された部分まで組立が進んでいます。



柱 ちょうな加工



垂木 丹土塗装



一の肘木 やりがんな仕上げ



文様彩色 (支輪板)

◆ 二重部分の組立 ◆

加工された木材は、順次、素屋根内に運ばれ組み立てられます。



組立状況



柱 組立

※安全対策上の観点から、素屋根3階へは上がりません。場内展示物等で二重部分の組立状況をご覧下さい。